

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	当会が2000年より構築してきたサハラ砂漠の無線連絡網は、10数年を経過し、既設の70局中のほぼ半数が保守・点検を必要とする状態になっていたが、当事業により、現地アフリカでは入手困難な補修用部材を供給するとともに、あらためて現地人技術者を首都ヌアクショットに集め、メンテナンス技術の研修を実施し、無線連絡網の再生、強化の態勢を整えた。 当初の計画では、研修後、受講者がそれぞれ担当区域の村落に戻り、無線局の補修を行う計画だったが、受講者5人の内、特に技能のすぐれた3名を選抜しチームを編成して各村を巡回させ、一方、日本人技術者は治安の安全性を考慮して、ヌアクショットの中央局より局の現地人責任者を介して遠隔操作により補修作業を指揮し、35局のメンテナンスを完了した。35局中17局が構成部品の不具合から通信不能の状態にあったが、現地人技術スタッフは研修の成果を活かし、補修作業を巧みに行って無線網を復活させた。 さらに18局は通信可能な状況ではあったが、アンテナ、ソーラパネル、マイクロホン、トランシーバーに経年劣化がみられたため、構成部材の交換により局の機能向上を図り、当初の目標、(30局)を上回る35局の無線局の再生強化と活性化を達成した。
(2) 事業内容	5月の時点でカウンタパート(チシット文化福祉促進協会・ACSP T)と取り交わした覚書に基づき首都ヌアクショットに砂漠地域から選抜した5人の現地人スタッフを集め、メンテナンス能力を向上させるための技術研修会と無線局建設のOJT作業を行った。SWR計やテスターを使い、アンテナなど無線局各部の性能測定法、不具合箇所の発見方法、故障症状の鑑別手順などを徹底的に指導した。また、机上での研修に引き続き、ホテルの屋上に架設した無線局、新たに移設した中央局並びにヌアクショットの南約150キロに位置するティヌウ市に、同市のブダ市長からの要望により新設した診療所局などで実技訓練を行い、メンテナンスに必要なノウハウを伝授した。また、移設した新中央局は、従前の中央局が周辺に高層のビルが建ち、電波伝播に影響が出てきたため、砂漠よりヌアクショット郊外の地区に移設したものであるが、当該局は停電対策として従来の商用電源方式から、ソーラシステムを優先する方式に改め、運用の信頼性を高めた。 新中央局開局を祝って、村落局向けにボランティア・ドクターによる「乳幼児と婦人の健康向上を目指して」と題した記念講話を無線を通じて行ったが、好評であった。

(3) 達成された成果	「村落無線局の巡回メンテナンス体制の確立」 保守・点検の技術研修会とそれに関連したOJT実技訓練を徹底して行った結果、無線網の保守、点検のノウハウを取得した現地人スタッフによる巡回メンテナンスの体制が整い、今回、目標の30局を上回る35局の機能を回復することが出来た。カウンタパート（ACSP T）の技術責任者、ハタビ氏の技術能力も優秀であり、同氏による今後の継続的な指導が期待できる。 この度の無線連絡網の運用機能回復は、150万人余りといわれる砂漠地域の住民たち並びに、国境地帯に移住してきたと言われる一部のマリ難民などにとっても、生活環境の改善に大きく貢献出来たものとする。 「ボランティア・ドクターによる医療相談の活性化」 新たに移設された中央局とティヌウ市診療所局の2局、及びチシット地区に新設された救急車移動局1台の増設などにより、現行の「ラジオ・ドクター・システム」がさらに強化され、砂漠地域住民の地域医療に対する信頼度も向上できたと考える。今回の補強事業により、無線を通じた医療講座、予防接種情報、伝染病の発生警報などをさらに積極的に配信するようカウンタパートに提案を行ったので、目標にした医療相談回数もさらに増加するものと期待しており、現地からの報告を待っている。また、事業終了後、現地マスコミに対し、今回の支援事業が日本政府によるNGO支援制度によるものであること及び当無線網の裨益についてプレゼンを行った。 [現地紙コピーを添付しました]
(4) 持続発展性	医療用、緊急用無線通信網事業の継続、維持については、首都の中央局に加えて、今回、砂漠の中央部、チシットにもサブ中央局が設けられ、研修会で日本人技術者と協同して指導に当たったACSP Tの技術リーダー、ハタビ氏が同局の責任者としてメンテナンス作業の推進に従事してくれることになり、通信インフラの継続環境が一段と整備されることになった。 また、今回の研修中に、受講生とともに彼らの交信内容を終日、受信してみて判ったことであるが、当初、緊急用無線網を供与した時点では、首都の中央局が主導権を握ってシステム全体を動かしていたのが、現状では、ネットコントロールの主体が徐々に中央局中心から地方の主要村落局に移りつつあるようであり、中央局からの情報伝達終了後も、数局の村落局がコアとなって、主として女性オペレーターたちによって、ローカルに必要な医療情報や緊急情報の交換が行われている状況が認識された。この事実は、当無線連絡網が砂漠の僻地村落間の重要な緊急連絡網として日常的に定着していることを示すものとして、長期に渡ってサハラ砂漠の通信インフラ支援を続けてきたわれわれにとっても嬉しいことであった。